大学教育の原理と方法

大学教授法入門

ロンドン大学教育研究所大学教授法研究部
喜多村和之／馬越徹／東曜子編訳

IMPROVING TEACHING IN HIGHER EDUCATION

4003

大学教授法入門

大学教育の原理と方法

ロンドン大学教育研究所大学教授法研究部
喜多村和之／馬越徹／東曜子編訳

玉川大学出版部

Improving Teaching in Higher Education

Produced by University of London Teaching Methods Unit

© 1976 Institute of Education

編訳者序

本書は、大学・高等教育レベルの教職関係者、とくに大学教師のために、大学教育の原理と方法、授業の設計（デザイン）や教授法の技法（テクニック）などを解説する入門書として、編集・翻訳したものである。この種の書物としてはわれわれの知るかぎりでは、日本ではじめてのガイドブックといってよい。

わが国には現在、大学、短期大学、高等専門学校など一、〇〇〇校をこえる高等教育機関が存在し、そこには二〇〇万人をこえる学生が学んでいる。これに高校卒以上のレベルの約二、〇〇〇校の専修学校（＝専門学校）や各省庁の大学校などを加えれば、およそ一八歳人口のほぼ半数が、毎年なんらかの形で高等教育レベルの学習機会を享受していることになる。この尨大な数の高等教育機関で教育にたずさわっている教師の数は、大学の本務者だけでじつに一一万人をこえ、高等教育制度全体では一五万人にもたっしようとしているのである。

このように学校数、学生数、教員数の点で高度に大衆化した日本の高等教育の現状にもかかわらず、その最も基本的な機能である教育の原理と方法については、不思議なことにこれまでほとんどふさわしい関心も注がれず、適切な書物も皆無といってよいのが実態である。たんに量的に

大衆化したばかりでなく、質的にますます多様化しつつある学生や社会の学習要求に適応していくためには、高等教育レベルの教授＝学習過程の特性を明確にし、多様な教育目標に応じたカリキュラムの組み方や構成のしかたを知り、カリキュラムの目的や内容に対応した教授法の改善や工夫をこらして、それぞれのレベルや必要性に応じたコースのデザインや評価をおこなうことは、いやしくも高等教育にたずさわる者にはとうぜん要求される義務となってきている。そしてこうした知識や技術の習得の必要性は、高等教育レベルの教職に関係する者にとって、今後ますます必要不可欠な要件となるものとわれわれは信じている。

本書は、広島大学・大学教育研究センターが、一九八〇年から着手している共同研究プロジェクトの一環として生まれたものである。大学教育研究センターは、大学・高等教育の研究を任務とする日本で唯一の国立の専門研究機関であるが、八〇年代の新しい共同研究課題として、「高等教育におけるイノベーション――カリキュラムと教授法に関する比較研究」を実施している。われわれの考えによれば、今日の日本の大学の現実は、伝統的な大学教育の観念ではとうてい対応できないような種々の教育上の問題に直面しつつあり、新しい大学教育の原理と方法の開発が緊急に求められている。そして、この新しい大学教育は、具体的には大学が提供する正規の教育課程であるカリキュラムのなかに構造化され、大学教育における新しい教授法を通じて学生に提供されなければならない。そのためには、何よりもまず、あらためて今日の日本の大学教育の原理を体系化し、その教育目標を明確化し、その目標に適合したカリキュラムや教育方法を開発して

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

いくための学習と研究が、開始されなければならない。

――以上のような考えから、われわれはまず、伝統的に大学の教育機能を重視し、いくたの実験と研究の蓄積をもつイギリスの大学教育研究から学ぼうとした。その作業の一環として、数多い類書のなかから、日本の現状にとって最も適合性をもつと思われる書物をえらんで、これを翻訳・紹介することにしたのである。

そこで本書の構成の中心となるのは、大学教育の研究に伝統と学問的蓄積を誇るロンドン大学教育研究所大学教授法研究部（University of London Teaching Methods Unit＝UTMU）が、一九七六年（初版）に刊行した『大学教育の改善』（*"Improving Teaching in Higher Education"*, 154 p.）の翻訳である。

しかしながら、すでに述べたように、わが国には大学教育の原理や方法に関する類書がまったく存在せず、先行研究もきわめて乏しい。そこで本書は、たんに原書の忠実な翻訳ではなしに、大学教育にたいする関心をよびおこすための序説として、編訳者（喜多村、馬越）の解説を冒頭につけることにした。大学教育の本格的な理論にいきなり当面するよりは、このような原理や方法が必要とされる背景や理由について、紹介しておく方が読者にとって便利かと考えたからである。

同様にして、翻訳じたいも、文字通りの逐語訳ではなく、できるだけ日本の実状に照らして適合するものになるよう心掛けた。言うまでもなく、イギリスの大学教育と日本のそれとは共通の

点とともに異質な制度・慣行がすくなくない。また、イギリスにおいてとうぜん前提とされる大学教育上の知識のレベルと、日本の場合のそれとはちがいがある。そこで翻訳上も、日本の一般の大学教師にとって無意味な部分、あるいは理論や技法が余りに特殊にわたってかえって誤解や混乱を招くと思われるような部分は、あえて訳出しなかった場合がある。また出版の関係上、全体の紙幅も制約されているので、翻訳としては原著の約三分の二程度の分量となった。この割愛部分の選択については訳者たちが協議のうえ決定したが、最終的な責任は喜多村にある。

翻訳作業は、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ章を東が、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ、Ⅶ章を馬越が、原著序文、Ⅷ、Ⅸ、Ⅹ章を喜多村が一応担当したが、すべての章は三人の訳者が毎月二回の定期の研究会でくりかえし訳稿を修正し、調整し合ったので、実質的には三人の共同訳といってよい。ただし、最終的責任は、訳文全体の調整にあたった喜多村が負うべきであろう。なお、一九八一年に、原著者のひとりである Dr. Roy Cox が来日したので、疑問点について直接問いただすことができたのは幸いであった。

本書が成立するについては、玉川大学出版部前部長田口迪太郎氏、現部長代理関野利之氏、編集課の成田隆昌氏にひとかたならぬお世話になった。しるして感謝の意を表する次第である。

この小さな書物が日本の高等教育の向上改善のためにいささかなりと貢献することを祈りつつ。

一九八二年十月

訳者を代表して　喜多村和之

大学教授法入門　目次

編訳者序……iii
序説……9
I　日本の大学における教授と学習……喜多村和之　11
1　大学教育における教授法の軽視
2　カリキュラム論の不在
3　伝統的な大学教育観
4　大学教育の問題点と新たな課題
5　大学教育改善のための提言
むすび
II　諸外国における大学教授法の研究と実践……馬越徹　32
はじめに
1　大学教授法研究の歴史的背景
2　大学教授法研究の成立要因

3　ヨーロッパ各国における大学教授法研究とスタッフ・デベロップメント活動
おわりに

大学教育の原理と方法

……ロンドン大学教育研究所 大学教授法研究部　59
原著序文……61
I章　大学教育における教授と学習……67
1　学習は個人的事象である
2　学習の原理
(1)動機づけの重要性　(2)報奨と罰　(3)訓練
3　教授の原理
(1)教育目標　(2)カリキュラム　(3)評価
4　三つの教授＝学習様式
(1)一人対一人の教授＝学習　(2)小集団方式ないしゼミナール方式の教授＝学習　(3)多人数集団方式の教授＝学習

Ⅱ章　講義法……86
1　講義法における共通問題
(1)教師の主観的感情　(2)コミュニケーションに伴う諸問題　(3)講義の準備・構成・提示
2　学生に共通の問題
3　講義改善のためのストラテジー
教師のための講義評価アンケート
Ⅲ章　小集団討議法……106
1　なぜ小集団で学ぶのか
2　効果的な集団討論
(1)集団の選択　(2)討議集団の物理的条件　(3)相互理解の原理　(4)相互影響力の促進　(5)質問のしかた　(6)討論のあと　(7)個人指導教師の役割
3　各種の小集団教授法
討議法の評価のためのチェックリスト

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

Ⅳ章　個別的・自主的教授＝学習法《その1》……134
1　シミュレーション・ゲーム・ロールプレイ
(1)三つの教授法の長所　(2)三つの教授法の短所
2　プログラム学習
3　文献利用学習
4　誘導学習
5　仲間集団教授法
Ⅴ章　個別的・自主的教授＝学習法《その2》……151
1　実習
2　プロジェクト法
Ⅵ章　個人指導・カウンセリング・学生問題……167
1　学生問題とカウンセリングの本質
2　カウンセリングの実践

Ⅶ章　学生の成績評価……186
1　伝統的な成績評価の問題点
2　成績評価の多様化
(1)能率の向上　(2)伝統的試験の改善　(3)口述試験
(4)総合評価方式にコースワークを加える方法　(5)卒業論文による評価　(6)実習試験の廃止
Ⅷ章　教育目標の設定……198
1　教育目標とは何か
2　教育目標は何に由来するか
3　教育目標の種類
4　教育目標はどのように記述したらよいか
5　教育目標を記述することの利点
Ⅸ章　コース・デザイン……209
1　コース・デザインの過程
2　コースにおける諸活動と教育目標との関連性

3　学習の順序

X章　教授過程の評価……218

1　教師の役割

2　教授過程の評価基準

3　評価の方法

4　教授＝学習過程の測定

(1)　授業の評価　(2)コースの評価

序

説

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.co